

学びのストーリー（単元の流れ）

1次

総合のテーマ・ゴールを決めたい！

◎総合の学び方を学ぶ

- 先生が紹介してくれた「河川教育取り組み支援」楽しそう！
- 川で調査活動すれば、自分たちが決めた3つの条件に合うね。
- 総合のゴールは「実際に環境をよくする取り組みをすることができるだけ多くの人に川や自然環境の大切さを伝えたい」に決定！

ゴールに向けての計画を自分たちで決めたい！

◎自分たちの力で探究の道筋をつける

- できることがいろいろありそうだから、詳しく考えようよ。
- 役割分担したい！ ・調査しなきゃ。 ・取り組みを発表したい。
- 環境のイベントを開こうよ。 ・どんな順番でやろうか？

◎おおよその年間スケジュールを考える

- 発表は6年生を送る会が終わった3月にしようよ。
- 調査活動には時間をたっぷり使いたいね。
- 調査結果をもとにして、冬休み前にイベントを企画しよう。

自分たちが何をしたいか具体的に考えたい！

◎広いテーマから具体的な中身へと焦点化していく

- 川の生き物にも種類がありそうだから、分けて調べたいな。
- ごみがどれくらいあるか環境調査もしたいね。 ・分担しよう！

2次

役割分担をして、準備を進めたい！

◎グループごとに自分たちに合う調査方法を考える

生態系調査グループ

環境調査グループ

【植物担当】

- 川のそばと水中両方調べて、写真を撮ろうよ。

 【水中生物担当】

- 実際に網で捕まえたい。
- 採れる生き物で、水のきれいさが分かるらしいよ。

 【陸上生物担当】

- 虫とか鳥とかいろいろ見つけたいね。
- 図鑑にしたら面白そう。

【水質調査担当】

- 薬品を使えば水のきれいさが分かるみたいだね。
- 何か所も調べたいな。

 【ゴミ調査担当】

- 酒匂川のごみ拾いに参加したことあるよ。
- 実際にごみ拾いして、どんなごみが多いか、調査しようよ。グラフにまとめると分かりやすいかも。

活動費用10万円の使い道を決めたい！（本時）

◎いろいろな視点から予算の使い道を考えていく

- 魚を捕まえるための網や虫かごを買わなきゃ。
- 記録用のカメラもほしい。 ・ライフジャケットも必要。
- 専門家の人を呼ぶのにお金がかかるんじゃない？
- 全体を見て予算を決めてお金を使ったほうがいいんじゃない？
- 本当に必要な物にお金を使おう。 ・早く調査したい！！

調査活動・川の環境をよくする取り組みをしたい！

◎調査して情報を集め、整理分析し、共有し、アクションへ

- 酒匂川や用水路にはたくさんの生き物がいるのが分かった。
- ごみがこんなにあるとは思わなかった。
- 地域や学校全体に呼び掛けて、ごみ拾いイベントを開こう！
- 多くの人に伝えるために新聞に取り上げてもらおうよ！

3次

自分たちの取り組みをできるだけ多くの人に伝えたい！

◎できるだけ多くの人に伝える方法を考え、役割分担する

- みんなにこれまでの活動内容を伝えるプレゼンを作ろう。
- 写真がたくさんあるから、図鑑にして見てもらおうよ。
- 酒匂川を大切にしてほしいから分かりやすいアニメにしよう。
- 自分たちの活動をこんなに多くの人に伝えられてうれしい！

1年間の総合の学びを通して、自分たちにはどんな力が付いたのかな？

◎探究的な学びを通して身に付けた力を実感する

- 思いを実現するために粘り強く取り組む力が付いたよね。
- みんなで協力して一つのことを創り上げる力も付いたよ。

授業デザイン

響き合う

表面的な話し合いでテーマやゴールが決定してしまわないよう、自分たちで決めた「総合のテーマ決めの3つの条件」に合致しているかを十分に検討させ、みんなが納得した上で決定する。

高め合う

自分たちが目指すゴールに近付くためには何をどんな順番でしたらよいのか、いつ頃その活動を行うのか、グループや全体で話し合い、自分たちの力で探究の道筋をつける。そしてその後の見通しを持つ。

手立てや概念

自分たちが一つずつ決定していったゴールまでの道筋を掲示板に貼り、いつも目に触れるようにすることで見通しをもって学べるようにする。

高め合う

広いテーマから具体的な中身について焦点をあてた話し合いをすることで、よりビジョンを明確にする。

手立てや概念

今後一人一人が主体性をもって学んでいけるようにするために、グループ1つあたりの人数を考えたり、メンバーのバランスを考えたりするよう助言する。また、担当を分ける方法があることも伝える。

自己調整

自分が調べたいことは何なのか、どんな方法で調べればよいのかを一人一人が考え、所属するグループの友達と検討し、見通しをもって学ぶようにする

響き合う

活動費用の使い道について理由を示しながら話すようにすることで、納得感・他の意見を生まれやすくする

高め合う

「よりよい使い道」を考えさせることで、話し合いの中身もよりブラッシュアップできるようにする。

高め合う

調査活動をして集めた情報を整理分析し学級で共有するとともに、「どのように改善するか」「より多くの人に理解してもらうにはどのようなイベントを開催したらよいか」を話し合い、活動の質を高める。

手立てや概念

子どもたちの「できるだけ多くの人に伝えたい」という思いを実現できるよう、メディアを含め必要に応じて支援する。

自己調整

伝える相手や目的を考え、それに適したツールを各自で選べるようにする。

自己調整

1年間の学びを振り返り、自分にはどのような力が付いたのかをメタ認知するとともに、6年生になって探究的に学べるよう動機づけする。

評価規準／評価方法

【思考・判断・表現】

①総合のゴールに向けた道筋を自分なりに考え、伝えている。

【知識・技能】

①課題解決のために必要な情報を、自分なりの方法で調べている。

【思考・判断・表現】

②課題解決のために集めた複数の情報を、比較したり関連付けたりしながら分析し、実際に取り組む内容を選択判断している。

【思考・判断・表現】

③総合のゴールの達成を目指す上で必要なものを出し合い、活動費用10万円のよりよい使い方について考えている。

【知識・技能】

②調査活動を継続して行うことは簡単ではないことを体験的に理解し、友達と協力したり改善したりしながら取り組んでいる。

【学びに向かう力・人間性】

①伝える相手や目的を意識して、よりよい発表にするために粘り強く取り組もうとしている。

【思考・判断・表現】

④伝える相手や目的を意識して、プレゼン・図鑑・アニメ等の資料にまとめ、わかりやすく表現している。

【学びに向かう力・人間性】

②探究の過程を振り返り、総合の学びのよさを再認識し、今後に生かそうとしている。

願う子どもの姿

- 自分たちで決めた総合のゴールにたどり着くために何をどの順番で行っていくべきか、時期の見通しをもって自分たちで道筋を考えられる姿。
- 活動への強い思いを表出し、話型を越えた自分の言葉での響き合いをすることで、よりよい活動へと高めていける姿。
- 自分たちの思いを実現するためには協力が不可欠であることを自覚し、集団の一員として自分の役割を全うすることができる姿。
- 探究のサイクルを繰り返しながら協働的に学んだことで「自分たちにどんな力が身に付いたのか」を心から実感できる姿。